

はじめに

現在、名古屋大学では、六月初旬の木曜日から日曜日にかけて名大祭が開催されます。名大祭は、一九六〇（昭和三五）年から一度も中断されることなく毎年行なわれ、二〇一〇（平成二二）年で五一回を数えました。

名大祭の特徴の一つは、日本の大学祭としては珍しく、初夏に開催されることです。大学祭は秋が普通であり、少なくとも名古屋市において初夏に本格的な大学祭をおこなっているのは、おそらく名古屋大学だけだと思います。そのこともあって、名大祭には毎年五万人もの人々が足を運びます。名大祭は、名古屋大学の最も重要な行事の一つであるとともに、名古屋における初夏の大イベントとして地域に定着しているのです。

本書は、この名大祭の半世紀を超える歴史を紹介するものです。また、名大祭の現在と過去の比較を通じて、今日における名大祭、ひいては大学祭の意味を歴史的に考察する手がかりを示すことができればと思います。